

第2号

発行：Dream 五代塾
吹田市千里山西 5-14-17
発行責任者：理事長 川口 建

Dream 五代塾 Sinbun (新聞)

赤心の人

五代友厚

Dream 五代塾顧問 八木孝昌



● 大隈重信への贅言五ヶ条

明治新政府で大蔵大輔・参議・大蔵卿の要職を務めた大隈重信は天保九年(一八三八)佐賀の生まれで、五代友厚より三歳年下である。二人の間には親交があり、多数の書簡が残されている。

五代が明治五年一月十日付で大隈重信に宛てた書状『五代友厚伝記資料』第一巻史料一五九)には、大隈を諫(いさ)めた「贅言(ぜいげん)五ヶ条」の記述がある。

それぞれの条項の進言には説明が付されているが、それを省略すると、内容は次のようである。

第一条

愚説愚論を聞くことに、能(よ)く堪(た)んべし。

第二条

己(おのれ)と地位を不同(おなじ)くせざる者、閣下(かくげ)の見(み)ると、其(その)の論説(ろんせつ)する處(ところ)、五十歩百歩(いそひゃく)なる時は、必ず、人の論(ろん)を賞(ほ)めて、採用(さいよう)すべし。

第三条

怒気(どき)怒声(どせい)を発(は)するは、其(その)の徳望(とくぼう)を失(う)する原由(げんゆう)也(なり)。

第四条

事務(じむ)を裁断(さいだん)する、其(その)勢(いきほひ)の極(きよく)に迫(お)るを待(まち)て、之(これ)を決(き)すべし。

第五条

己(おのれ)、其人(そのひと)を忌(い)む時は、其人(そのひと)も亦(また)、己(おのれ)を忌(い)むべし。故(ゆ)に、己(おのれ)の不欲(ほつせざる)人に勉(つと)めて、交際(こうさい)を弘(ひろ)められん事を希望(きぼう)す。

この五ヶ条には前置きが置かれている。その中で五代は「友厚が大隈閣下に「贅言(余分な進言)を述べたところ、「友厚の赤心、御採用(くだされ候)ことは「天下国家の僥倖」であり、ついでに「贅言の五ヶ条、別紙を以て上申致し候」と書いている。

ここに使われている「赤心」は「曇りのない真心」という意味である。和語では同じ意味で「赤き心」が使われる。

「赤心」も「赤き心」も今では死語のようになっているが、かつては大切な言葉として扱われ、万葉歌(巻二十、四四六五)にも用例がある。

この前置きには、「赤心」が三回も使われている。二つ目は、「友厚の赤心、記憶あらんことを」であり、三つ目は、「従来の鴻(こう)恩(おん)万(ま)分の一(いち)を報(は)せん為(ため)、閣下(かくげ)の短欠(たんけつ)を述(の)べて、赤心(せしん)を表(あらわ)す」である。

この度、新たに発刊された「Dream 五代塾新聞」の題字に「赤心継がん」の文言が付されている。「赤心」が五代の人となりを表すという考え方が示されている。

そこで五代が「赤心」をどのように使っていたのかに具体的に当たることになるが、その前に前田正名の五代追悼歌に使われている「赤き心」を見る。

● 前田正名の追悼歌

明治二十八年十一月、五代没後十年記念号として刊行された雑誌『商業資料』第一巻第



『商業資料』第一巻九号の表紙 (曾野豪夫氏所蔵)

九号に、薩摩出身の前田正名(まさな)が詠んだ追悼歌が載っている。この歌が五代長逝時に詠まれたものか、没後十年の機会に詠まれたものかは不明である。

時くれば赤き心もあらはれて

惜しまれて散る紅葉(もみぢ)もみぢ(なまらん)

「もみぢは時機(とき)が来ると赤い心が表(あら)わられるかのように紅葉(もみぢ)し、惜(お)しまれて散(ち)ってゆくが、国益(こくえき)・公益(こうえき)のために尽(つ)した五代(ごだい)の忠誠心(しゅんじやうしん)という赤(あか)き心(こころ)もいよいよ明らかになるだけに、その逝去(しよき)が惜(お)しまれてならない」というほどの歌意(かゐ)である。これを詠んだ前田正名(まさな)は五代(ごだい)より十五歳(じゅうごさい)年下(ねげ)で、前田(まえだ)にとつて五代(ごだい)は崇敬(すうけい)のおくあたる先輩(せんぱい)であった。

前田(まえだ)が五代(ごだい)を悼(なぐさ)む言葉(ことば)として「赤き心(せきしん)」を軸(しき)に置(お)いたのは、五代(ごだい)が小(こ)だん「赤心(せしん)」を座右(せうざう)の銘(めい)に置(お)いていることを知(し)っていたからではないか。

このように考えて、書簡(しよかん)を集めた『五代友厚伝記資料』第一巻(だいいち)に当た(あた)ってみると、この大隈(おほせ)重信(しげのぶ)への「赤心(せしん)継(つ)がん」の題字(だいじ)に「赤心(せしん)継(つ)がん」の文言(ごんごう)が付(つ)いている。



五代友厚没後十年日に発行された『商業資料』第一巻九号 故五代友厚祭文の上部に前田正名の追悼歌が載っている。

宛書状以外にも「赤心」が見つかる。

「赤心」の使用例と五代の人性

●二月二十四日付大久保利通宛書状(『五代友厚伝記資料』第一巻史料五七二)。

「赤心は御詳解と存じ奉り候へども、決して御遠慮あるべからずと存じ奉り候」

●六月四日付大隈重信宛書状(史料六一四)。「赤心を表し、尊意を得奉り候」

●七月十三日付大隈重信宛書状(史料六一〇)。「迂生(うせい)(小生)赤心、御明照下され候はゞ」

以上の書状とは別に、鉱山業の「弘成館財本規則」第五の中に「赤心」がある。そこでは、会社利益の五割を弘成館職員への利益配分・福利厚生・有志活動助成等に充てると規定し、次のように結んでいる。

「以上五割の全益は、館中に仕る者終身治養の目的を与へ、或は有志の志を助け、人と共に利し人と共に興起するの赤心を表す所なり」(『五代友厚伝記資料』第三巻「弘成館」史料二)。

「赤心」は重要な言葉ではあるけれども、日常語ではない。明治期にあっても、ほとんどの人は「赤心」を生涯の間に使用することなかったであろう。ところが五代の残した記録からこれだけ多くの「赤心」が見つかる。それは「赤心」が五代にとって座右の銘に等しい言葉となっていたことがわかる。「公益・公益のために」「利他のために」「生涯を捧げた五代に、それはまことに心さわしいことである」。

「赤心」(せきしん) 五代友厚が好んで使った言葉です。Dream 五代塾はその精神を大切に、未来へ継いでいくことを最大の目標として掲げました。(理事長)

五代才助 いざ世界へ 富国のために!! (上)

Dream 五代塾理事長 川口 建

■ 事は「五代才助上申書」から

1864年6月五代才助28歳は、薩英戦争で捕虜・逃亡していたことを藩に対して赦免を求めるとともに、今後の国づくりに対する提言書を書き送った。その中では、開国による富国強兵の方法論を示し、留学費用の捻出方法や購入する軍備や機械などについても細かく言及している。これが『五代才助上申書』といわれるものである。(上申書の前文及び解説概要は五代塾ニュースVol.12で紹介)

この上申書に見る開明的な思想は、すでに島津斉彬が描いていた構想でもあり、特に欧米への留学生派遣は、安政4年(1857年)ごろに計画されておりその素地があった。しかし、斉彬の急逝でこれらの計画は中止せざるを得なく、だれも手を付けられない状況にあった。五代は、長崎海軍伝習所での勉強、上海渡航の経験、世界経済・貿易について抜群の知識を習得し、この斉彬の意志を継ぎ実現へと進めることができた。

『五代才助上申書』は約13,000語を超える意見具申書となっており、本論の展開は次の三つの主旨に沿って展開されている。

- (1) 第一に日本からの輸出(外貨獲得法)
- (2) 次が輸入(近代的な機械や武器・艦船などの耐久財)
- (3) 最後に視察団や留学生の派遣(科学技術の取得・育成方法)である。

もう少しかみ砕くと、
①日本の産物(米や茶などの商品作物)を上海や香港など大陸へ貿易し利益を上げる
②砂糖精製の大型機械を購入し、それによって砂糖生産・貿易を図ること
③英仏など先進国への留学生の派遣(運賃や滞在費なども詳述)
④これらの利益によって軍備購入をすること
⑤新式大砲(アームストロング砲)の購入と武器開発
⑥銀銭製造(貨幣鑄造)機械の導入
⑦農業工作機器、農業用ポンプの購入
⑧銃砲用の火薬製造機購入
など、詳細に収支計算を添えて進言している。

五代の上申書を読み解くと、その後の明治政府の「殖産興業」策がいかに五代の想定に入っていたかがうかがい知れる。

■ 最も価値ある若手人材の育成

1965年4月、『五代才助上申書』の提言通り、英国への渡航が実現した。当然にこれは幕府に隠れての「密航留学」である。

幕府はすでに、咸臨丸の米国派遣(1860)、文久遣欧使節(1862)を送ったり、また、五代が加わった中国視察船などの海外渡航はあったが、まだ自由に海外に行くことは認められていなかった。

実は1863年春に長州藩士渡欧留学「長州ファイブ」が英国に向け日本を脱出していた。だが薩摩藩は藩をあげての19名の大所帯使節団である。幕府方の目を考慮し、表向き「飢島(こしじま)ならびに大島(奄美)への用向き」との名目であり、辞令は全員偽名であった。

使節団と留学生の役割は次の通り明確にされている。まず使節団等については、
新納久脩：使節団全体の団長
寺島宗則：外交使節(イギリス外務省との交渉)

五代友厚：経済使節(紡績機械 武器弾薬の購入)
堀 孝之：通訳(元々長崎のオランダ通詞)

町田久成：14名の留学生の監督

次に留学生について五代は、開成所教授・石河確太郎の推薦を参考にし、留学生の人数、人員構成までも言及している。

留学生の人選は、藩の洋学校「開成所」の特に優秀なものを主体に15名を選抜している。例えば、身分・年齢・思想など各層から選抜(帰国後すぐに藩政を担う即戦力と長期的な展望のもとに若年層を混合)している。特に3名は攘夷説を唱える藩士で、英仏の軍務・地理・風俗をよく見てくる使命とした。

また、農業用機械を調査する者、築城、砲術に詳しい者を派遣し英国の大・小砲事情を調べ、英仏の学校・育兒・救貧などの厚生施設を見る者、機械・設計・技術を学ばせる者、と、留学の目的を明確に定め、構想した人選であった。

これらの考えは、藩の要路に立つような人材や強硬な攘夷急進派を、欧州の地へ連れていくことによって、科学技術の格差や軍事力の圧倒的な開きを見て実感し「百聞は一見に如かず」で、目を開かせようという考えが見える。



長州ファイブ
後列左から、遠藤謹助、野村弥吉、伊藤 井上多門、山尾庸三
前列左から、(ウイキペディア)

■ 羽島出発

新納刑部と留学生15名は2ヶ月前に串木野村の漁村にて身を潜め、商人宿 藤崎龍助方 網元・川口成右衛門方に分宿し勉学に励んでいた。留学生たちは出発日が不確定のなか、不安と期待を胸に抱き、五代の迎えを心待ちにして待た。



英国留学生が約2ヶ月滞在した左・川口家と右・藤崎家 撮影筆者 (2019年11月13日)

出発直前になり、13歳の幼い磯永彦輔(長沢鼎)のちのカルフォルニアのワイン王と呼ばれた)がいち早く鬘を切り、母・家族に託したといわれている。14歳の町田清蔵も後に続いた。

当初の人選では攘夷派として畠山丈之助、島津織之助、高橋要が選ばれたが難色を示し、島津久光、小松常刀の説得にも応じず島津高橋は辞退、畠山はやむなく応じた。2名の代りに村橋直衛と名越平馬が選ばれたが、両名とも釈然としない気持ちはあったようだ。尚、留学予定であった町田武彦(町田民部のすく下の弟)21歳は、蘭字を学ぶくそ真面目な男であったが、旅立ちの5日前に突然の死で渡欧はかなわなかった。

1865年4月17日、留学生たちは羽島の港から小舟に分乗し、五代が長崎から迎えに来たオースターライオン号に乗り移った。明るい

夕日がのぞいており、この西の果てにはイギリスがある……。出発は翌朝と決まった。船上、五代・松木・新納・堀を除き全員が鬘を切り、洋風の髪型に整えた。また、五代は、財政を豊かにするには海外貿易をする必要性を留学生に説いたといわれる。

(例えば)米4,000石を8,000両で購入し上海で売りさばれば12,475両のもうけが出る。また、琉球のサトウキビは、鍋で煮て砂糖をつくる原始的な製法であるが、イギリスの蒸気機械を用いれば凡そ100日で1台100トンもの良質な砂糖ができる。これを20台購入すれば2,000トンもの砂糖ができ、上海で売れば1,253,700両ほどになる。経費を差し引いても1,049,070両位は楽に儲かる。このようなことを商人のようにすらすらと言つてのけたという。上申書に提言したことでもある。因みに、今回の留学費は運賃や滞在費だけで少なくとも7万両近い巨額である。若い俊秀たちをイギリスに送り一刻も早く西欧化の実現をしながらはいけないと決意していたに違いない。(現在の金額にして5〜10億円になる)

この夕日の写真は、筆者が2019年11月14日に羽島の漁港で撮影したものであるが、遠くに見える五代の迎えに来た船をみて二度と帰国できないかもしれない覚悟と、西欧文明への期待で眺めていたのではないでしようか。

「五代才助 ござ世界へ 富国のために!!」は次号へ続く



羽島の夕日 撮影筆者

書評

八木孝昌著『新・五代友厚伝』

Dream 五代塾顧問 曾野豪夫

全編を流れる五代友厚の幕末時代からの本邦殖産興業、国家富強に向けての精神と実行力が八木先生にも憑依(ひょうい)して筆を進めておられたことに唯々満腔(ただただまんこう)の賛意と敬意を表します。



過去の多くの五代友厚や関連する書籍記録論文等を渉猟(しょうりょう)し、その「てをば」や接続詞の有無までも見落とさずに正確さを追及して五代友厚の業績についての記述は見事というほかりません。

百五十年の年月を経てやっと正しい五代友厚の全体像を江湖(こうこ)に問う好著(こうちよ)に接し、五代友厚豊子夫妻と些かの縁のある者として縁者共々深甚なる感謝の意を表する次第であります。しかも先生は、五代友厚について多くの予備知識もなく執筆依頼を受けてから僅か二年半で本著を書き上げられたことはただ只驚嘆(きぼう)としか表現できません。

特に、利他の精神で生涯を捧げられた五代友厚の偉大な業績に棘(いばら)のように引っかけた「明治十七年「北海道開拓使官物払い下げ事件」が濡れ衣であったこと」の解明は、先人が成すこと能わず、八木先生が国立国会図書館で当時の閣議決

定事項等を発掘して記述された「五代友厚無罪論」は誠に胸がすく思いが致しました。これ迄長年にわたり多くの五代友厚関係者が「そのようなことで浮利を得ようとする五代ではない」と信じてつつも、具体的に反論して下さる方がいなかったため切歯扼腕(せつしやくわん)しておりました。

それがこの度八木先生畢生(ひつせい)のご高著で打破されたことは大阪商工会議所、大阪市立大学その他多くの関係者一同様と共に誠に同慶の至りであります。

今後は貴著をもとに教科書に記述されている「五代友厚政商論」の削除と、「東の渋沢栄一、西の五代友厚」とが、東京と大阪に夫々の商法会議所を設立して東西で初代会頭として相携えて日本の躍進に尽力したことを教科書に記述して貰うことによって、将来の青少年に五代友厚の名を永遠に記憶して貰えることを念じる者であります。

長生きした甲斐がありました。有難うございました。(今年八十八歳となります) 明治日本の偉人、富国の使徒五代友厚豊子夫妻の晴れやかな再登場を!

(令和二年十一月)



2020.12.15 産経新聞記事

Topics

講談 真説 五代友厚伝

4月17日、八木孝昌作、旭堂南照口演の会が催され、大阪市立大学文化交流センターホール(大阪駅前第2ビル6階)主催…万葉集勉強会に行ってきました。

昨年9月に八木孝昌氏が『新・五代友厚伝』を発刊され、その内容を講談師旭堂南照さんのために18話を書き下ろされました。本日はその内の二話(①大阪の恩人 ②開拓使官物払下事件(一))のお披露目をして頂きました。



講談は「講釈師見てきたような嘘をいう」とよく言われますが、私は本来「歴史を正しく、わかり易く、面白く話をする」ものだと思います。

今日の講談口演は、まさに五代の歴史をわかり易く、面白く聞かせてもらいました。聴いているなかで「なるほど、そういうことか」という点が多々あり勉強になりました。早く18話全てを聞かせてもらいたいと熱望します。また、この真説五代友厚伝が講談として、50年、100年と伝承されていくことを期待する一人です。

本を読まずとも五代の全てがわかるお話となっているようです。(八木先生の本が売れなくなりですね) 因みに、講談師の旭堂南照さんは、51歳で講談師になられたユニークな存在の方です。

なお、『新・五代友厚伝』は従来の誤伝を正す目的で昨年の9月に発刊されました。

八木氏は『五代友厚伝』は過去何人かの方々が発刊されているが、どれも明治28年に片岡春卿編『増正五位勲四等五代友厚伝』の記述をそのまま踏襲されています。従い、歴史的に間違っている箇所をそのまま使用したり、誇張して話をつくったものが散見されるため、これらを検証し原本に基づき正していくことが使命として動かれました。

中でも北海道官物払い下げ事件は、五代友厚は全く無実でありながら高校の教科書では「五代は払い下げ物件を格安に手に入れた」として政商である」と悪徳商人を連想する様な書かれ方をされています。また、その無実となる資料がありながら今までの歴史学者は誰も訂正せず現在に至っているのです。学問的に優秀な学者諸氏においても、派閥の壁や前例踏襲の安易な考えが蔓延しているのが想像できます。

五代がこのような事例に関わったならば、ただちに正す行動をするでしょうね。

(川口 建)



シンガーソングライター 堀内圭三さん

今回ご紹介する堀内圭三さんは Dream 五代塾のフェイスブックを見て 2021年3月に会員になりました。

堀内さんは京都を中心にライブ活動をされていますが、このコロナ禍で開催が出来なくなり、今回の緊急事態宣言発出を機に YouTube

【ほっこりカフェ】でライブ配信のバーチャルカフェを毎晩10時〜11時過ぎまで開かれるようになられました。毎晩300人近い方が参加され、コロナを気にすることなく会話を楽しみ、ほっこり過ごせるカフェになっています。



堀内さんは以前から五代友厚公を尊敬されており、昨年の映画【天外者】を見られて一層五代友厚公に興味を持たれるようになった。Dream 五代塾のホームページや、いろんな五代友厚に関する著書を読まれていたそうです。

その中で八木孝昌著書の『新・五代友厚伝』は、今まで読んだ本の中で一番わかり易く五代さんを伝えているのでは、と『新・五代友厚伝』を【ほっこりカフェ】の中で再三アップで紹介されています。『Dream 五代塾新聞』の紹介も。

三浦春馬さんのファンの方々も、映画【天外者】をきっかけにこの【ほっこりカフェ】で交流を図られ、五代友厚公についてもっと知りたい、もっと勉強したいという嬉しい仲間が増えてきています。一緒に勉強のできる方が増え、五代さんの生き方などを考え、自分の生活に生かしていくことが出来れば最高ですね・・・

尚、【ほっこりカフェ】は5月18日で24日連続開店されましたが、以降は火・日の週2回の開店で、開始は9時から(1時間30分前後?)となります。

(川口 由美子)

編集後記

映画【天外者】は大好評で、国内では数少ない映画館の上映のみとなっているが、5月7日から台湾公開に始まり、ANA国際線の機内視聴、ハワイ国際映画祭、そして上海国際映画祭に出品される。まさに今、世界の五代友厚、三浦春馬として蘇ろうとしている。

今から159年前1862年に、五代友厚は二度目の上海へ幕府船の水兵として便船、その船の中で高杉晋作と知己を得、2ヶ月の市場調査をしている。欧米の高層建物、大型蒸気船の往来、経済市場の大きさに驚いたに違いない。しかしながら、アヘン戦争の敗戦の結末であり、清国一般国民にとっては見かけ上の繁栄でしかなかった。

当時上海の街の主要地域は租界(外国人居留地)となり、イギリス、フランスやアメリカ等多くの欧米諸国が占領していた。国を守るには攘夷の考え方があるが、五代は富国策をとり開港する事が国を強くする事であるとこの時確信したに違いない。

この上海に五代友厚映画【天外者】として上陸し上映される事は感慨深いし、本当に素晴らしいことが起こっています。これもひとえに田中監督、三浦春馬君のファンの熱心な支えが大きな力になっています。そして中国の方々が、五代友厚公の考え方生き方を、感じ取って頂くことが出来れば映画を作った意義があると思いたいますがいかがでしょうか?? (事務局)

会員募集中 詳細 Dream 五代塾 HP <https://www.dream-godai.com>
事務局連絡先 川口建 携帯:080-4497-5688 Email:aoaoken12345@gmail.com